

おおい町の皆さまへ

## 5月17日「福島の人たちとの交流・座談会」



### 福島の皆さんが語られたこと

### おおい町の皆さんが書いてくださった感想

5月17日、福島から4名の皆さんにおおい町へ来ていただき、交流・座談会を行いました。おおい町の里山文化交流センター（名田庄地区）とふるさと交流センター（佐分利地区）で合わせて約90名の方が参加されました。



プルサーマルを心配するふつうの若狭の民の会 若狭町 石地 優  
グリーン・アクション

京都市左京区田中関田町22-75-103 TEL 075-701-7223 FAX 075-702-1952

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL 06-6367-6580 FAX 06-6367-6581

2012. 6. 9

## 5月17日「福島の人たちとの交流・座談会」で語られたこと



福島の方々のお話を抜粋して紹介します。

- 長谷川健一さん（58才） 飯舘村民。現在は福島県伊達市の仮設住宅で避難中。  
飯舘村前田地区区長、福島県酪農業共同組合理事

福島原発が爆発して放射線量が40  $\mu\text{Sv/h}$  になって大騒ぎした時も、3月15日には100  $\mu\text{Sv/h}$  を振り切った時も、村長も国も県も公表せず口止めをしてきました。そんな中、自分の区民を集め、事実を伝え、放射能から身を守るよう「大人も必ずマスクせよ」「上着は玄関で脱げ」「洗濯物は外で干すな」など指示を出しました。他方、村長は放射線を浴びながら生活する方法を模索します。そして計画的避難区域に指定される前日にまで、子どもが外で遊んでも大丈夫、マスクもいらないという安全安心の説法が御用学者によってされていました。自分たちの牛は大丈夫なのか心配でしたが国も県も村もJAからも指導もなく、自分たちで酪農を廃業することを決めたといいます。最後に牛が餓死した写真を映し、それを豚が食ってるというトンでもないことが、この日本、福島県で起こっているんだ、おおい町と福島を入れ替えて考えていただきたい、飯舘村は除染しても子どもたちは帰らない。若い人が戻ってくるような環境じゃない、という実態を切に訴えかけられました。

- 遠藤陽子さん（62才） 富岡町民。福島県いわき市に避難中。  
元中学校音楽教員。双葉郡の医療を良くする会代表

事故が起こった時1300人いた富岡町の子どもたちが、学校再開する際に戻ってきたのは70人だったこと、補償を要求してもなかなかうまくいかない現実、そして家族が分断されたり自分の子どもを守りきれたのか？と悩んでいる実態などをお話されました。最後に子どもがいなくなる町に将来はあるのか？と問いかけられました。

- 大賀あや子さん（39才） 大熊町民。現在は福島県会津若松市に避難中。  
子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク世話人。

3月11日は新築の地元産住宅に入居直前だった大賀さん。大熊町での放射能汚染レベルは人が暮らせるまでには下がらないだろうと言いました。10月～12月で除染のモデル事業をするはずが今年の4月になってもまだ終わらず見通しが立たないこと、仮設住宅で過ごしながらか大熊町の方角である日の出を見て泣いている人がいること、事故前を思い出すたび懐かしいがどうやってこの心を抱えてやっていくんだろうと悩んでいる実情などを語られました。

- 田中徳雲さん（37才） 南相馬小高区市民。福井県坂井市に避難中。  
南相馬市同慶寺住職

最後に話された南相馬市から福井県坂井市に避難中である田中徳雲さんは、お寺の住職さんです。「原子力は産業だ」と推進してきた町長が原発の爆発をみて「やっちゃった、俺の人生終わった」と言っていたという裏話がありました。また、どうしてこんなことになったのか、みんなが被害者でありみんなが加害者ではないか、それぞれみんなが声を出し合い社会が腐らないよう「ぬか床をかき混ぜる作業をしていこう」と比喩を交え話されました。そして今とても大変な時ですが、ピンチはチャンス、今ならまだ間に合う！と希望をもって話されました。

## おい町の皆さんが書いてくださった感想



おい町の皆さんの感想をいくつか紹介します。なお、個人が特定されるような箇所については、省略しています。

生の声を聞いて実感がわいてきました。誰も責任を取らない、そして捨てられることが良くわかりました！

遠いところ御苦労さまでした。たくさんお聞かせ戴き1年間余り耳目をかたむけて来ました。現地の人のお話を聞き再びびっくり、不安全の原電の地に住み続ける者がしつかり声を出さんといかん。



遠い所から来て頂いて身近な話をさせて頂いてありがとうございました。私達住民は今ここで、原点に戻って考えることが大事である。我々は原点にもどれるか？このままの生活状態で進むことを望むなら再稼働しかないだろう。そこをどう住民が腹をくくって、ゼロに取り組んでいくかだと思う。

規制庁の設置、ベントフィルター・免震棟、少なくとも3点ができてから議論すべきという条件で動いて欲しい。

あの時我々住民がもう一押ししておけばこうはならなかったと思う時が必ずくる！私達町民はそうでならない様がんばるべきだ。

現地の方々4名様からの福島の原発事故で避難され又家族の散りばらばらになり、愛牛も田畑を捨て避難しておられる現在は察するに余りあります。私達も大飯原電1号～4号も有ります。大変心配です？どうしたらよろしいかわかりません。昨年3月に福島原発事故に見舞金を直にお送りしました。めげずに頑張りお祈りします。

福島の皆さんの生活を聞けば何も言えません。理想と現実の両立の難しさを痛い程感じています。最後に話された方は誰もが被害者であり加害者の面も持ち合わせているとおっしゃいました。その事を認識して一人の人間として果たすべきことを考えていきたいと思えます。

田中さんがすぐに家族をつれてヒナンされたその勇気に感動。親であっても「子供を殺す権利はない」と思います。ご自身はどうなってもいいと福島へ行っておられるようですが、あなたに何かあったとき、自分は本望でも「家族は困ります！！」。今日は体験をそのまま4人の方々に聞かせていただき、同じ事が起こりうる私達はものすごく勉強になりたけになりました。ご苦勞に何も出来なくて申し訳ありません。その分私たちがそうならないようにしなければ。お世話下さった方々ありがとうございました。

福島の方の生の声を聞いてよかったです。我々はしらなすぎます。ドイツのように脱原発にカジを切ってもらいたい、その方向性が決まれば、あらゆる方面の方、専門の方のエイ智を集めて良き方向に行くと思っています。

おおい町議会は再稼動に14日同意しました。住民説明会は一体何だったのでしょうか？とても不信感を持っています。田中徳雲さんのお話にあったように「ぬか床をかきまぜる」為に声を上げていかなければと思いました。



福島の方の生の声を聞きあらためて原発反対と思いました。ぬかどこをかきまぜるお話がありましたが本当に声に出して反対と言わねばと思いました。自然エネルギーの開発は重要と思いました。

おおい町まで来て下さった福島の方に感謝です。話を聞きに来てよかった。今後どうするのかおおい町…。今の状況に腹が立つ

4人の生の声を聞いて原発（被災）の実態がよりリアルに聞くことができました。私は昔から原発はやめるべきといういわば極論者です。やっぱり事故が起きました。町議や町長が財政雇用、町の経済、福祉を考えると再稼動を容認せざるを得ないのは苦渋の選択とも言えます。原発にしがみつかなければ生きていけない町にしてしまった、されてしまった、苦しみです。原発そのものの処理について先が見えない日本原子炉のみの危険ばかりではなく、使用済核燃料も大変危険である。こんなものをこれから先もどうするのか、原発を続けることは、幸せな将来、いい町づくりにつながらない気がする。若狭は原発墓場になる。

福島から遠いところおこしいいただきありがとうございました。新しいおおい町をつくっていくために後悔しない生き方をしていきたいと思います。

